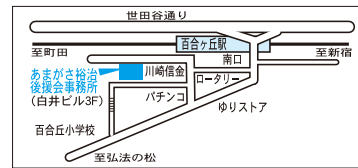




発行所／
みらい川崎市議会議員団事務局
〒210-8577
川崎市川崎区宮本町1番地 川崎市役所第二庁舎内
TEL:044-200-3355 FAX:044-245-4135

百合丘事務所／
〒215-0011
川崎市麻生区百合丘1-20-7 白井ビル3F
小田急線百合ヶ丘駅下車徒歩1分
TEL・FAX:044-955-2417
メール: amagasa@khaki.plala.or.jp



ホームページ: <https://www.e-amagasa.net> Facebook、Twitterでも情報発信しています



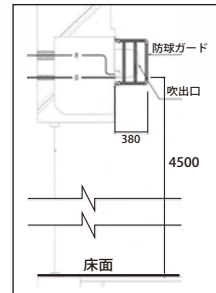
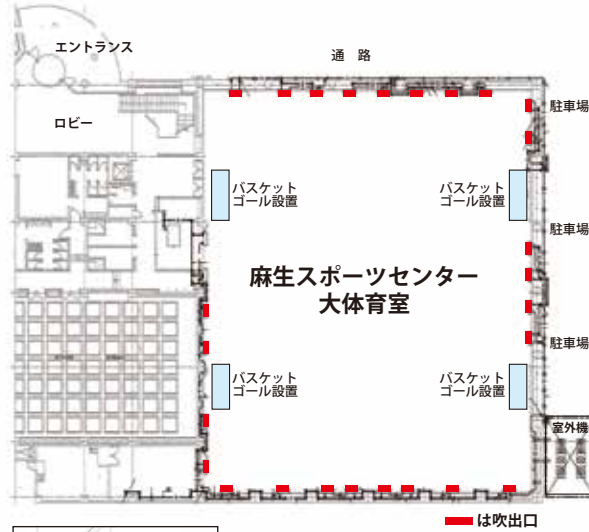
麻生スポーツセンターに念願のエアコン導入!

各スポーツセンターの冷暖房稼働中の換気対策の在り方についても調査を要請

時間がかかりましたが長年にわたり陳情してきました麻生スポーツセンター大体育室の冷暖房の空調設備(事務室で集中リモコンで管理する28台)が設置されることとなりました。令和4年10月1日～令和5年3月31日までの期間での工事予定で進んでいます。利用団体の皆様から新型コロナウイルス感染の状況を考えて換気についての配慮ができていないのか不安とのご意見を頂きました。そこで6月に市民スポーツ室とまちづくり局機械設備担当の責任者と協議をしました。

今回設置する空調は、予算が高額になる吸排気対応型ではないことがわかりました。現在設置済みの換気システムは、屋上の送風機で1時間かけて大体育室の換気ができるようになっていますが、それでは利用時間の点や競技の種別(スポーツによって空調による風の流れが良とされない)によってうまく使用して頂けるか工夫が必要になることを指摘しました。

市の担当者からは麻生スポーツセンターの指定管理者も含めて、よりよい換気のあり方について検討しマニュアルを作成し運用できるようにする、との考えが示されました。あわせて各区スポーツセンターの冷暖房稼働中の換気対策のあり方も調査を要請しました。



◀ 吹出口の設置位置も床面から4500ミリで、十分な高さの位置に設置できます

※現在生じている機器の不足などで、入札不調の場合は時間がずれる可能性あり

横浜市営地下鉄3号線
延伸による
麻生区のまちづくり

2面にまちづくり特集
麻生区のまちづくりに
皆様のご意見を!



川崎市議会議員

あまがさ 裕治

将来を見越した川崎市の緑を最適化する予算・体制の強化を

広域連携によるナラ枯れ対策と川崎市の緑の維持管理について

●あまがさ裕治

麻生区は市内でも有数の、自然な里山が残る緑が豊かな地域です。また、横浜市および多摩市、稲城市、町田市といった東京都に囲まれた特異な地形を形成しています。「ナラ枯れ」を例にとっても、樹木、虫の問題は隣接する地域との協働が欠かせません。さらに、そもそも論として、ナラ枯れを招いた里山の荒廃問題についても、綿密な協働があってしかるべきですが、これまでのナラ枯れを含めた連携はどうでしょうか?

■建設緑政局長

川崎市は、神奈川県が実施するナラ枯れの被害や対策についての研修や会議に参加し、他都市の状況の把握を行っているほか、近接する自治体に対して、ナラ枯れの被害や対策状況について、適宜、情報共有を行っています。今年度は、本市を含む九都県市において、首脳会議の合意に基づき、ナラ枯れ被害対策の推進について、国に要望を行っています。

●あまがさ裕治

九都県市や神奈川県という括りでも、ナラ枯れ対策は重要な議題です。本市が中心となって進めている多摩・三浦丘陵の緑と水景に関する広域連携会議は16年目を迎えています。首都圏における連続している丘陵にとって重要な役割を担っています。ナラ枯れのような重要課題の解決に対して取り組むべき貴重な緑政群であるといえるのです。

連携会議におけるナラ枯れの実務も、正式な議題としてとりあげ協議をすべきだと考えています。

■建設緑政局長

本会議は、みどりはつなぎ手というキーワードのもと、関係する13自治体が連携し、多様な主体との協働による広域的な緑と水景の保全・再生・創出・活用を目的に取組を進め、これまでもナラ枯れ対策について情報共有を行っています。今後も引き続き広域的な緑のつながりの視点を活かして連携を図っていきます。

●あまがさ裕治

平成22(2010)年川崎市では行財政改革の取り組みとして、環境局緑生部を建設局とあわせて組織改正を行いました。4つの公園事務所が廃止され、各区道路公園センターに公園や街路樹など維持管理をはじめ機能が移管されました。川崎市の南中北西各ブロック別での維持管理は、一定の特性を持つ範囲の管理という点から考えれば意味のある対応であったと思います。行革によって地域の緑の特性を考えた維持管理の体制が弱くなってきているのではないかと憂慮しています。特にここ数年、本市の緑の管理の悪さを指摘する市民の声が増加しています。市民の満足度は、まちの美観と直結していると言えます。将来を見越した川崎市の緑を最適化する予算及び体制の強化について市長の見解を伺います。

■福田市長

これまで、市民にとって身近な道路、河川、公園、緑地等の整備を一体的に行い、豊かで潤いのある、より良好な都市環境を形成するため、建設緑政局及び道路公園センターを設置し、市民ニーズへの対応

に取り組んできました。今後も、効率的・効果的な体制で取組を着実に進めていきます。

また、近年の社会環境の変化や、市民の価値観の多様化に伴い、緑の新たな役割や、価値の創造に向け適切な対応が求められていますので、令和6年度に開催する「都市緑化フェア」を契機に、より一層、市民、企業と連携しながら、取組を進めていきます。

市長に要望と提案を行いました
きれいな街は市民の満足度に直結する重要課題

平成22年、4つの公園事務所が廃止され、各区道路公園センターに移管されましたが、市全体で人員は約400名から350名へと削減されました。

現在までの13年間で人口は約14万人余も増加しました。14万人とは海老名市の人口に相当します。陳情も当然増加しますので、相応の体制と予算を強く要望します。また、管理のできない特別緑地保全地区公有地化が、691haから758haと、10%も増加したこともナラ枯れの拡大を生んだ、という自覚を持って欲しいと考えます。

●あまがさ裕治 市長への提案●

- 1, 今後、環境アセスメントに関する評価には、緑の増減だけではなく、5年後10年後といった将来に残せる緑のあり方を加えるべき
- 2, 緑地保全協定に当たっては、極力大径化した樹木を整理してから受け渡しに不備をなくすることを検討すべき